



彩雲基金日本語スピーチコンテスト開催される



4月17日(土)午後、昆明市の雲南省図書館講堂において第11回彩雲基金日本語スピーチコンテストが1年ぶりに開催されました。世界的なコロナ禍での開催については昨年が中止となり今年も当初は危ぶまれましたが、昆明市及び雲南省での徹底したコロナ対策の成功、主催者である雲南翻訳者協会日本語分会をはじめとした関係者の努力により実施できたことは大変喜ばしい限りであります。関係者の皆様に心からお礼申し上げます。なお例年湘南日中からは多くの会員が参加していましたが、コロナによる渡航制限が厳しい中で今回は昆明訪問が叶いませんでした。

開会の冒頭、実行委員会の張麗華会長から「長年にわたり開催にご援助とご支持を頂いた柳田秀憲会長をはじめとした湘南日本中国友好協会、藤沢市民の皆様にご感謝申し上げます」とご挨拶がありました。続いて鈴木恒夫藤

沢市長の祝辞、柳田湘南日中会長と増田隆之彩雲基金代表のメッセージが代読されました。

このコンテストは湘南日中による共催事業で藤沢市と在重慶日本領事館からも後援を頂いています。今回は雲南大学、雲南師範大学、雲南民族大学など雲南省の主要7大学を代表して14人の学生が出場しました。

予めテーマを与えられた「命題スピーチ」とその場で出題される「即興スピーチ」の2部分に分かれて行われましたが、命題スピーチのテーマは「新型コロナショックを越えて」と「言葉の力」、即興スピーチのテーマは「私と微信」でした。出場者は日頃学習を重ねた日本語によるスピーチで会場の聴衆を沸かせていました。

今回は会場に出席できない審査員もいるため、後日ビデオ審査による採点も含めて優勝者などを決定します。なおビデオをご覧になりたい方は上野までご連絡ください。

ビデオを上映



4月24日(土)午後1時半から市役所市民利用会議室で第11回彩雲基金スピーチコンテストのビデオ上映会を行い、審査員の木村副理事長をはじめ11人の会員が参加しました。

第2回40周年実行委の開催



第2回藤沢市・昆明市友好都市提携40周年記念事業実行委員会が4月14日(水)に市役所において開催されました。今回は実施事業として、東京オリンピックや市民まつりへの招待事業、市民訪問団の募集、藤沢市公式訪問団の派遣、日中文化・スポーツ交流、40周年記念誌の発行などが課題として論議されました。

市民訪問団の募集についてはコロナによる渡航環境が非常に厳しいなかで、今回は実施しないこと。また日中文化・スポーツ交流については直接的な交流は難しいが、オンラインによる交流などを検討していくこと。さらに40周年という大きな節目を記念するため、友好都市提携の絆となった聶耳の功績、聶耳記念碑の建設、1981年の友好都市提携から40年の歩みを記念誌として編集し発行することなどが確認されました。

総会のお知らせ

2021年度湘南日本中国友好協会総会を次のとおり開催いたします。

日時 6月20日(日)午後1時～4時半

場所 藤沢市民会館第2会議室

今回もコロナ感染対策のため総会と講演会のみとし、その後の懇親会は行わないこととします。なお緊急事態宣言の発出などにより開催できない場合は改めてご連絡させていただきます。

かわせみ離脱問題について

日本語教室かわせみは2007年に高橋伸輔先生をはじめとした湘南日中の役員・会員でスタートした教室で、湘南日中の日本語学習支援ボランティア組織として大きな社会貢献をしてきています。

2月下旬にかわせみ担当役員から唐突に湘南日中から分離独立の申し入れがあり、急遽三役による話し合いも行われ、湘南日中規約に基づいて役員会の議題として審議することとしました。3月27日の役員会では他の役員から組織離脱について多くの疑問の声も上がり、次の役員会に継続審議となりました。ところが4月17日の役員会の前に担当役員から「4月30日をもって湘南日中を離脱」する旨の文書が一方向的に送られきて、役員会で認められなくても離脱することとした。規約上の問題も残したままの離脱は大変遺憾に思います。日本語教室かわせみの関係者には良識ある行動を求めたいと思います。

事務局から もう1年以上続くコロナ禍のなかで確実に増えているのが体重。何とか体内脂肪を燃やそうと暇があれば自宅から鵠沼海岸までサイクリングをしています。数日前に聶耳記念碑広場に立ち寄ったらハマヒルガオが咲いていました。日光を浴びて輝く可憐な姿にしばしウットリ。

